

科目名 (英)	衛生管理 Hygiene management	年次	1	実務経験	担当	渡邊 隆
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師実践科	単位	1			
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	都度					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	この科目がなぜ必要かまた授業の進め方について説明する
2	公衆衛生の概要と歴史	公衆衛生とはどういうものでありまたそのなかでの歴史上の人物について学ぶ
3	美容師と公衆衛生、保健所について	美容師がどのように公衆衛生に係りやその最前線にある保健所の業務や素子について学ぶ
4	母子保健、成人保健 その1	子供や母親についての統計学的数字や生活習慣病などの成人についての保健を学ぶ
5	成人保健 その2	生活習慣病について具体的な例や統計学的数字を学ぶ
6	老人保健と福祉精神保健	高齢化社会における保険制度や心の病についての問題点などを学ぶ
7	中間試験	公衆衛生全範囲
8	環境衛生の目的と意義、空気と健康	環境衛生とはどういうもので、その中の空気の役割について学ぶ
9	温度、湿度、気流と健康	温度や湿度、気流と我々の関わりについて学ぶ
10	衣服と住居の衛生	衣服の意義や役割、窓や照明、冷暖房などの役割を学ぶ。
11	上下水道と廃棄物	上下水道の供給、ゴミやし尿の処理について学ぶ
12	衛生害虫とネズミ 環境保全	衛生害虫やネズミの影響や美容師が環境の破壊を起こさないようにする為の環境保全について学ぶ
13	第5篇 美容所における衛生管理要領	美容師法よりもより詳しい美容所の管理運営についての管理要領について学ぶ
14	振り返り・定期試験	1～13回の振り返り、質疑応答、定期試験
15	定期試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	化粧品化学Ⅱ Cosmetic chemistry	年次	2	実務経験	担当	川名 修
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師実践科	単位	1		曜日・時間	
講師紹介	民間企業で材料開発・高分子物性の研究に携わり、加えて美容業務で扱う様々な化粧品に関係する物品の知識にも精通している。実務でも役立つ重要な知識を解説する。					
目的 科目概要	美容室を訪れるお客様は美容師が化粧品を扱うプロであると信頼して技術を受けている。その信頼に応えること、つまり化粧品の性状や正しい使い分けは勿論のこと、社会的な意義・法的な根拠・安全性などをどのように担保しているかまで当然認識しているべきである。これらの目標を達成するべく体系的なカリキュラムに従ってバランスの取れた総合的な理解を目指すことを目的とする。					
到達目標	この科目では化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的の他、どのような薬品が化粧品に属するのか、その定義・社会的意義や特性・法的根拠・製品の安定性も含めた安全性について講義する。これらは顧客に対して絶対に事故を起こしてはならないという目的のためであり、公衆衛生に資する美容師として身につけなければならない知識である。この目標を意識して授業に取り組んでいただきたい。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	化粧品化学(日本理容美容教育センター)	事前事後 学習と その内容	随時、調査課題を出題するのでそれらを調査して自律的に学び、発見する経験を積んでもらいたい。正しい情報源であることを精査しつつネット情報などを有効に用いてもらいたい。スマートフォンをゲームだけに用いるのはもったいないことである。			
教材	適宜配布する					
特記事項	講義で用いる提示資料は撮影を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	基礎化粧品・皮膚清浄用化粧品	石けんの製造方法及び石けんの種類と働き・機能などについて解説する。教科書85～90ページ
2	化粧水・クリーム・乳液	化粧水の種類と機能性、クリーム・乳液の種類と機能性について解説する。教科書104ページまで
3	メイクアップ用化粧品	メイクアップ用化粧品の特徴と配合物品の性質などについて解説する。教科書121ページまで
4	頭皮毛髪用化粧品・シャンプー剤・ヘアリンス剤	シャンプー、リンス、スタイリング剤の機能と配合物品の関係について解説する。教科書123～135ページ
5	パーマ剤	パーマの原理と用いる薬剤の関係について解説する。また安全性に関する注意点に関しても論じる。教科書142ページまで。
6	ヘアカラー剤・育毛剤	様々なヘアカラー製品の内容と配合処方に関連について解説する。育毛剤の内容についても理解を深める。教科書156ページまで。
7	中間テスト	筆記テストを実施する。復習と質問の時間を設けたのちに始める。
8	芳香製品と特殊化粧品	様々な芳香製品、また特殊化粧品はサンケア製品・制汗防臭剤について解説する。教科書164ページまで。
9	国試対策演習①	教科書の単元別要点整理、国家試験過去問の演習を通して対策を研究する。
10	国試対策演習②	教科書の単元別要点整理、国家試験過去問の演習を通して対策を研究する。
11	国試対策演習③	教科書の単元別要点整理、国家試験過去問の演習を通して対策を研究する。
12	国試対策演習④	教科書の単元別要点整理、国家試験過去問の演習を通して対策を研究する。
13	国試対策演習⑤	教科書の単元別要点整理、国家試験過去問の演習を通して対策を研究する。
14	期末テスト	筆記テストを実施する。復習と質問の時間を設けたのちに始める。
15	期末試験の振り返り、総合演習	期末テストの解説をする。理解不足の項目を見定めて早めに理解を深めるようにしていただきたい。十分な質疑の時間を取りたいと思う。加えて総合演習を行い理解を深めていただきたい。

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	3	実務経験	担当	小坏亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	美容師実践科	単位	2		曜日・時間	
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術をまなび国家試験に合格する力をつける 概要:国家試験科目の第2課題であるワインディング、オールウェーブ、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解、習得できるよう復習する。 指示があった時にウィックを洗う 国家試験実技採点項目を把握に努める			
教材	マニュアル					
特記事項	第二課題発表後は、決定課題だけでなく、エアーカットを取り入れる場合がある。					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
2	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
3	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
4	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
5	中間試験について/第二課題決定について 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
6	中間試験について 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	中間試験の採点項目について 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
7	中間試験 ワインディングorオールウェーブ、衛生	試験内容:AW全頭25分orWD全頭20分、衛生 採点、評価、振り返り
8	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
9	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
10	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
11	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
12	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
13	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
14	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【WD】全頭20分 【AW】全頭25分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【WD】全頭20分 左右のバランス強化 【AW】全体のクオリティーアップ 個々の課題を明確にする
15	定期試験 ワインディングorオールウェーブ、衛生	試験内容:AW全頭25分orWD全頭20分、衛生 採点、評価、振り返り

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	3	実務経験	担当	工藤竹啓
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師実践科	単位	1		曜日・時間	木曜4限目
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、希望就職先へ内定できるようになる。 ②笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Sstyle	事前事後 学習と その内容				
教材						
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	マネー教育	クレジットカードについての理解。クレジットカードの種類や用途、メリット、デメリットについて考える。
2	考える力を身に付ける	目的をもって行動する。優先順位を決める。主体性を重視して行動する。
3	積極的に動ける人とは	行動することの大切さを学ぶ
4	ポジティブな発言	正しい言葉遣いを学ぶ
5	チームで働くために必要なスキル	多様な人々とともに、目標に向けて協力する力を学ぶ
6	グループワーク	1-5回のまとめ議論の進め方
7	中間試験	1-5回のまとめ
8	社会人基礎力を身につける	社会人基礎力①(前に踏み出す力)
9	社会人基礎力を身につける	社会人基礎力②(考え抜く力)
10	社会人基礎力を身につける	社会人基礎力③(チームで働く力)
11	指名されるプロになるために	接遇マナー
12	美容業界で必要なスキルを知る	SNSを活用した発信力を身につける
13	美容業界で必要なスキルを知る	営業の基本お客様に好かれる7か条
14	定期試験	社会人基礎力まとめ 筆記試験
15	定期試験振り返り	社会に出るための心の準備 生涯学習について考える

科目名 (英)	※導入教育 First Year Experience	年次	3	実務経験	担当	工藤竹啓
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師実践科	単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	社会人、企業人である以上、その行動には、『自己責任』の考え方が欠かせない。その為にも新たな現実に対応する力を学び、身に付ける。					
到達目標	社会人になる為に、十分な予備知識を持ち、それなりの決意、覚悟を持って挑む必要がある、それが社会人、企業人としてのスタートをよりスムーズになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。個人課題評価とグループ課題評価を統合し、評価する。評価記述はS(合格)、U(不合格)とする。導入教育の出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。					
教科書	新社会人基礎力	事前事後 学習と その内容	日頃の生活行動を常に振り返る			
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	第1章 会社に入るといこと 1、会社ってどんな存在なのかを知っておこう	法人にはどんな種類があるか 従業員は会社のために働くのが最大の義務
2	第1章 会社に入るといこと 2、会社での働き方にもいろんな形態がある	正社員と非正社員との違いを知っておこう 周りに立場の違う人がいる可能性も
3	第1章 会社に入るといこと 3、会社に所属することのメリット	会社員としての権利と義務を理解しておく メリットを生かして成長を目指す
4	第1章 会社に入るといこと 4、会社員の給与の仕組みはこうなっている	年棒制や業績給導入企業も増えている 会社の規則や業種によって違ってくる
5	第1章 会社に入るといこと 5、給与の額面と手取りの関係はこうなっている	額面は基本給＋各種手当なので決める 額面から20%～25%差し引いて考える
6	第1章 会社に入るといこと 6、仕事上の事故などを補償してくれる労災保険	あなたを守ってくれる4つの社会保険 通勤途上の事故も労災保険の対象になる
7	1～6の振り返り 中間試験	中間試験・解説・まとめ
8	第1章 会社に入るといこと 7、失業したときに心強い味方になる雇用保険	勤務5年以内なら求職者給付は90日 働く人は給与総額の0.3%を負担する
9	第1章 会社に入るといこと 8、健康保険があるから医療費負担は3割ですむ	本人だけでなく家族も守ってくれる 中小企業では保険料は労使が折半で負担
10	第1章 会社に入るといこと 9、老後の生活を安定させる年金保険制度	会社員になれば自営業者の3.5倍の年金 年金便りではなく自助努力も備える
11	第1章 会社に入るといこと 10、会社員として知っておきたい労働時間制度	法律では1日8時間、週40時間 所定外労働時間には割増手当が付く
12	第1章 会社に入るといこと 11、休日を上手に活用してリフレッシュしよう	大規模企業の90%が近くが週休2日制 年次有休休暇は10日からスタートする
13	第1章 会社に入るといこと 12、変形労働時間制など働き方も変わりつつある	仕事の繁閑に合わせて調整する変形労働時間制 自分の責任で働き方を決められる制度も
14	第1章 会社に入るといこと 13、会社で許されること許されないこと	まずは就業規則をしっかりとチェックしておく 公私の区別を明確にして仕事に取り組む
15	7～13の振り返り 定期試験	定期試験・解説・まとめ

科目名 (英)	※国家試験対策 National examination	年次	3	実務経験	担当	小坏亜矢子
		授業形態	演習			
		時間数	120	有	開講区分	
学科・コース	美容師実践科	単位	4		曜日・時間	
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術をまなび国家試験に合格する力をつける 概要:国家試験科目である、第1課題のカット、第2課題であるワインディング、オールウェーブ、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解、習得できるよう復習する。			
教材	マニュアル		指示があった時にウィックを洗う			
特記事項	マニュアルにたくさん細かい説明等を書き込む。理解できなかつた事は、その日に必ず質問し、理解できないままにしない。		国家試験実技採点項目を把握に努める			

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	【衛生】準備物の説明 【CUT】手順の確認ウィッグ① 【WD】全頭20分	【衛生】次回から必要な準備物の説明と7分、1分、入れ替え作業を行う 【CUT】手順を再確認 14cm/10cm 【WD】全頭20分 タイム、立ち位置 ステムの確認
2	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【CUT】エアークット ウィッグ① 【WD】全頭20分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【CUT】立ち位置、姿勢、角度、シェーブ注意して エアークット 20分 【WD】全頭20分 タイム、立ち位置 ステムの確認 採点項目について
3	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【CUT】全頭23分 ウィッグ① 【WD】全頭20分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【CUT】全頭23分 12cm/8cm 【WD】全頭20分 左右のバランス強化
4	【衛生】準備時間7分、拭き取り1分 【CUT】全頭23分 ウィッグ① 【WD】全頭20分	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【CUT】全頭23分 10cm/6cm 【WD】全頭20分 左右のバランス強化
5	中間試験について 【衛生】準備時間7分、1分 【CUT】エアークットウィッグ① 【WD】全頭20分	中間試験の採点項目について 【衛生】準備時間7分、1分 【CUT】エアークット20分 【WD】全頭20分 左右のバランス強化
6	中間試験について 【衛生】準備時間7分、1分 【CUT】エアークットウィッグ① 【WD】全頭20分	中間試験の採点項目について 【衛生】準備時間7分、1分 【CUT】エアークット20分 【WD】全頭20分 左右のバランス強化
7	中間試験 ワインディングと衛生	試験内容:全頭20分、衛生 採点、評価、振り返り
8	【衛生】準備時間7分、1分 【AW】全頭25分 【CUT】エアークット ウィック①	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【AW】全体のバランス強化 【CUT】エアークット
9	【衛生】準備時間7分、1分 【AW】全頭25分 【CUT】エアークット ウィック①	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【AW】全体のバランス強化 【CUT】エアークット
10	【衛生】準備時間7分、1分 【AW】全頭25分 【CUT】全頭20分 ウィッグ②	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【AW】ウェーブとリッジの強化 【CUT】正確にカット 14cm/10cm
11	【衛生】準備時間7分、1分 【AW】全頭25分 【CUT】全頭20分 ウィッグ②	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【AW】カールの強化 【CUT】正確にカット 12cm/8cm
12	【衛生】準備時間7分、1分 【AW】全頭25分 【CUT】エアークット ウィッグ②	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【AW】全体のクオリティーアップ 【CUT】エアークット
13	【衛生】準備時間7分、1分 【AW】全頭25分 期末試験について 【CUT】全頭20分 ウィッグ②	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【AW】全体のクオリティーアップ 【CUT】正確にカット 10cm/6cm
14	【衛生】準備時間7分、1分 【AW】全頭25分 【CUT】全頭20分 試験 ウィッグ③	【衛生】準備時間7分、1分、入れ替え作業を行う 【AW】全体のクオリティーアップ 【CUT】試験(新品ウィッグ) 10cm/6cm
15	定期試験 オールウェーブ 衛生	試験内容:全頭25分、衛生 採点、評価、振り返り

科目名 (英)	関係法規・制度 Related laws and regulations	年次	2	実務経験	担当	宗像純子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師実践科	単位	1		曜日・時間	
講師紹介	行政書士として法律実務に携わって参りました。法律を学んだ経験から法律を学ぶコツをみなさんにお伝えするとともに、法律がどのように実社会で関わりを持つのか、実際の事例をご紹介しますながら、法律を身近に感じてもらう授業をしたいと考えています。					
目的 科目概要	目的: 国家試験で合格点を取れる実力をつける。 科目概要: 今までのインプットを適切にアウトプットできるように、実際の国家試験を用いて演習を重ね、知識の定着を図る。相対的に弱い部分については繰り返し理解を促す講義を取り入れる。					
到達目標	美容師国家試験で合格レベルの解答ができるようになる。 「問題を解く」という視点から、正確にアウトプットできる。 あいまいな点、わからない点がなく正確に理解できている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	教科書(関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター)		事前事後 学習と その内容	事後学習に重点を置くことが望ましい。小テストなど行うので、間違えたところについては必ず復習をすること。		
教材	毎回配布するプリント					
特記事項	毎回プリントを配布するため、「関係法規」のファイルを用意して欲しい。第一回目の授業で詳細をお伝えする。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	過去問27回・28回	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。「問題を解く」という視点から、どのように正答を導き出すか、その心構えと解法テクニックを学ぶ。
2	過去問29回・30回	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。前回に引き続き「問題を解く」という視点から、どのように正答を導き出すか、その心構えと解法テクニックを学ぶ。
3	過去問31回/保健所	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、保健所について学ぶ。国家試験での出題傾向、重要知識を整理し、確認する。
4	過去問31回/開設者・美容師の衛生義務	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、開設者・美容師の衛生義務を学ぶ。それぞれがそれぞれ違う義務を有していることを整理し、確認する
5	過去問32回/美容所の開設手続	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。復習として、美容所の開設手続について学ぶ。開設手続の書類を実際に作成し、書き方や国家試験に出題される内容を確認する。講師が実際に使用した実物をスライドにより確認する。
6	過去問33回・過去問40回/美容所以外の美容・管理美容師	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、美容所以外での美容・管理美容師について学ぶ。細かい知識を正確に押さえられているかを確認する
7	中間試験	試験を通じて自分の今の実力を知る。
8	過去問34回/関連法規1	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 関連法規として教科書に上がっている、「生衛法」「労働基準法」他、美容師業に関係する法律についての知識を習得する。
9	過去問35回/関連法規2	“過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 関連法規として教科書に上がっている、「生衛法」「労働基準法」他、美容師業に関係する法律についての知識を習得する。”
10	過去問36回/関連法規3	“過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 関連法規として教科書に上がっている、「生衛法」「労働基準法」他、美容師業に関係する法律についての知識を習得する。”
11	過去問37回/衛生行政・行政機関・条例・法制度一般	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、衛生行政、行政機関等、理解しにくく、混乱しやすい項目についてもう一度整理し、理解を深める。
12	過去問38回/横断的知識の確認	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、「誰が」(例えば「厚生労働大臣」「都道府県知事等」が)、「何をするか」という視点から横断的な知識の確認をする。
13	過去問39回/横断的知識の確認	過去問を制限時間内に解答し、その後解説を受ける。 復習として、「誰が」(例えば「厚生労働大臣」「都道府県知事等」が)、「何をするか」という視点から横断的な知識の確認をする。
14	定期試験	試験を通じて自分の今の実力を知る。講師による国試出題が予想される問題を数多く取り入れるので、本番同様の緊張感で臨む。
15	総復習	前回の定期試験の解説を受ける。 最後に見直すべき、出題可能性の高い分野について解説を行う。高得点が取れるように気を引き締めて受講する。

科目名 (英)	化粧品化学 Cosmetic chemistry	年次	2	実務経験	担当	川名修
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・専攻	美容師実践科	単位	1			
講師紹介	民間企業で材料開発・高分子物性の研究に携わり、加えて美容業務で扱う様々な化粧品に関係する物品の知識にも精通している。実務でも役立つ重要な知識を解説する。					
目的 科目概要	美容室を訪れるお客様は美容師が化粧品を扱うプロであると信頼して技術を受けている。その信頼に応えること、つまり化粧品の性状や正しい使い分けは勿論のこと、社会的な意義・法的な根拠・安全性などをどのように担保しているかまで当然認識しているべきである。これらの目標を達成するべく体系的なカリキュラムに従ってバランスの取れた総合的な理解を目指すことを目的とする。					
到達目標	この科目では化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的の他、どのような薬品が化粧品に属するのか、その定義・社会的意義や特性・法的根拠・製品の安定性も含めた安全性について講義する。これらは顧客に対して絶対に事故を起こしてはならないという目的のためであり、公衆衛生に資する美容師として身につけなければならない知識である。この目標を意識して授業に取り組んでいただきたい。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	化粧品化学(日本理容美容教育センター)		事前事後 学習と その内容	随時、調査課題を出題するのでそれらを調査して自律的に学び、発見する経験を積んでもらいたい。正しい情報源であることを精査しつつネット情報などを有効に用いてもらいたい。スマートフォンをゲームだけに用いるのはもったいないことである。		
教材	適宜配布する					
特記事項	講義で用いる提示資料は撮影を許可する。					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	導入・物質の構成、化学式	化粧品化学をなぜ学ぶのかを概観する。様々な化粧品を理解するための基礎化学をはじめに開設する。身近な物質はどのように構成されているのか。すべての物質は化学式で表現できることを知る。ただし沢山の化学式を記憶する必要はないので安心していただきたい。
2	原子の構造、イオンの生成原理、化学結合	原子の構造はどのようなものか。またそこからイオンはどのように生成するのか解説する。さらにわれわれの周りに存在する物質は3種類にぶんるいできること、これは3種類の化学結合で理解できることを説明する。
3	溶解、溶解度曲線、コロイドの種類	化粧品は水に原料を溶解させる、あるいはコロイドにすることによって製造する。これらに関して溶解の原理、コロイド生成の原理を説明する。
4	酸と塩基、水素イオン指数、強酸・弱酸など	化粧品には酸性・アルカリ性が重要な役割を持つことがある。この意味を正しく理解できるように解説する。また、酸性・アルカリ性の強弱があること、それを表わすために水素イオン指数(pH)について解説する。
5	酸化と還元、パーマの原理	酸化と還元、酸化剤と還元剤について解説する。この原理を用いたパーマの原理を説明する。美容業務における中心的な内容なのでしっかり理解できるように頑張っていたきたい。
6	有機化合物	有機化合物とは何か解説する。有機化合物の種類は膨大なものであるところから特に美容業務に用いるものに関して説明するので代表的な物品はしっかりと記憶していただきたい。
7	中間試験	筆記テストを実施する。復習と質問の時間を設けたのちに始める。
8	化粧品概論、化粧品の定義、医薬部外品	化粧品の社旗的意義とは何か。安全を確保するための法的規制。化粧品の安定性と取り扱い上の注意などについて解説する。
9	化粧品原料(水性・油性原料)、皮膚・毛髪・まぶた	化粧品に用いられる原料について水性原料、油性原料(油脂、ロウ、炭化水素)について解説する。身近なものも多いので皆さんがすでに知っている物質に関して先ず理解を深め関心を広げていただきたい。
10	界面活性剤の種類と働き	化粧品を製造するためには必須の物品と言える界面活性剤とは何か、その構造に基づく種類別の役割について解説する。ここでコロイドの理解も深めることができるので関連させながら理解を深めていただきたい。
11	色材の種類とそれらの性質	ポイントメイクアップ化粧品では必須の原料である色素について解説する。国家試験対策としては十分なレベルなら11種類、最低限のレベルで5つは暗記する必要がある。これらについて理解を深めていただきたい。
12	その他の配合成分	酸化防止剤、防腐殺菌剤、紫外線吸収剤など化粧品の機能や安全性を確保するための重要な原料物品について解説する。この分野は国家試験では最も出題される範囲であるところからしっかり取り組んでいただきたい。
13	高分子材料、香料、特殊成分	化粧品に様々な機能を与える高分子材料や特殊成分について解説する。
14	定期試験	筆記テストを実施する。復習と質問の時間を設けたのちに始める。
15	定期試験の振り返り、総合演習	期末テストの解説をする。理解不足の項目を見定めて早めに理解を深めるようにしていただきたい。十分な質疑の時間を取りたいと思う。加えて総合演習を行い理解を深めていただきたい。

科目名 (英)	運営管理 Operational management	年次	2	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師実践科	単位	1			
講師紹介	現役美容師の教員が、運営管理の学習内容をつうじて、ひとりひとり、将来像やキャリアプランを想像できるような内容で授業を展開する。経営者の視点をもちつつ、自分がどう選択していくか、今後の人生を豊かにできるようにしてほしい。					
目的 科目概要	・経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ・人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ・顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ					
到達目標	経営管理、税金、社会保険、会計、接客など、身近ではない内容のように見えるし、身近ではない言葉がたくさん出てきます。前期では、噛み砕いた例を多様しますので言葉の意味をよく想像し、また、メモをとったり、みずから調べることでひきだしを増やすことに、慣れていく。また、国家試験科目なので、振り返りができるようなファイル作りをする。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	運営管理(日本理容美容教育センター)		事前事後 学習と その内容	授業内容のおさらいテストを次週行うため、内容の確認ができるようなノート作り、プリント整理をしておくこと。		
教材	配布プリント					
特記事項	運営管理用のファイルを必ず用意すること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	授業の説明・経営とは	「経営者になりたいか、なぜなりたいか、なぜなりたくないか、経営者とはどんな人をいうか」を考える
2	経営資源と経営戦略	経営資源とは何か、美容業の経営戦略を学ぶ
3	理容業・美容業の現状と競争	美容業界の現状と自分周りを比べて考えてみる
4	資金管理と会計	資金の管理について学ぶ 会計 貸借対照表と損益計算書 財務諸表とは何か学ぶ
5	税金について	税金の種類と支払うタイミング・支払わなかった場合の罰則について学ぶ・マイナンバー制度
6	人という資源・労務管理	経営資源の「ひと」について学ぶ・やる気を出すためには
7	中間試験	中間試験 1～6回の内容から 20点
8	人をやる気にさせるために	給与・待遇・労働者の権利
9	健康管理の基礎	健康診断・労働安全衛生法・美容師の仕事と健康について
10	社会人としての責任・社会保険①	国民年金について(制度・被保険者・給付・保険料)
11	社会保険①	厚生年金について(制度・被保険者・給付・保険料)
12	社会保険②	健康保険について(制度・被保険者・給付・保険料)
13	社会保険②	国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療保険について(制度・被保険者・給付・保険料)
14	定期試験	定期試験 8～13回の内容から 50点
15	定期試験・振り返り	定期試験の振り返り、前授業のファイルの提出

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	2	実務経験	担当	工藤竹啓
		授業形態	講義		有	
		時間数	30	曜日・時間		
学科・コース	美容師実践科	単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、希望就職先へ内定できるようになる。 ②笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書						
教材	手帳・筆記用具(ボールペン・シャープペンどちらも準備)	事前事後 学習と その内容	スケジュールの管理をしっかりと行い、時間管理・体調管理を整えて授業に臨みましょう。グループワークでは自身の発表を進んで出来るように準備をしておきましょう。			
特記事項	メモをする習慣を身につける。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介	自己紹介をすることでコミュニケーションを図りより良いクラス作りをする。
2	就職活動の心得	就職活動を行う上での心構えを理解する
3	業界について知る	美容業界の職種について自分のやりたいことを見つける
4	募集要項について知る	求人票の見方福利厚生の意味を知る
5	自己分析	自分に合ったサロンを選ぶことができるよう自分自身を見つめ直す
6	就職活動スケジュールを組み立てる	面接対策を通しての気づきをまとめ、それを活かすためにどの様にしていくかを考える。
7	中間試験	企業側の目線に立ち、『どのような人材がを求めているか』を考えてまとめる 800文字以内
8	社会人基礎力を身につける	社会人としてのマナーを身につける。上座・下座について学ぶ。
9	社会人基礎力を身につける	社会人としての言葉使いを覚える。敬語・丁寧語を正しく学ぶ。
10	社会人基礎力を身につける	伝える力を学ぶ。絵を見て覚え、他の仲間に言葉だけで覚えた絵を伝えることができるか。
11	自分の強みについて考える	認知特性を使って自分の得意なことを知る。得意なことをどのように強みに変えていくかを考える。
12	グループワーク	想定した顧客のニーズを満たせる賞品を話し合い、売るという軸からブレない力を身につける。 例)鉛筆を3万円で売るにはどうしますか
13	ストレスについて考える	ストレスを軽減するためにはどのような行動が必要かを考え、個人で考え、チームで共有する。
14	定期試験	社会に出ていくために必要なことについてまとめる。800文字以内
15	定期試験振り返り	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える

科目名 (英)	※導入教育 First Year Experience	年次	2	実務経験	担当	工藤竹啓
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師実践科	単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	社会人、企業人である以上、その行動には、『自己責任』の考え方が欠かせない。その為にも新たな現実に対応する力を学び、身に付ける。					
到達目標	社会人になる為に、十分な予備知識を持ち、それなりの決意、覚悟を持って挑む必要がある、それが社会人、企業人としてのスタートをよりスムーズになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。個人課題評価とグループ課題評価を統合し、評価する。評価記述はS(合格)、U(不合格)とする。導入教育の出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。					
教科書	新社会人基礎力	事前事後 学習と その内容	日頃の生活行動を常に振り返る			
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	第1章 会社に入るといこと 14、知っておきたい職場内のトラブルとその対処法	職場のトラブルはまだ増えている 相変わらずトップを占める『いじめ』を巡る相談
2	第1章 会社に入るといこと 15、どんなときに解雇されても仕方がないのか	会社の事情による解雇にも条件が必要 悪いことをすればクビになって当たり前
3	第1章 会社に入るといこと 16、会社員なら避けられない人事異動や出向・ 転籍の知識	3年程度で定期的に異動になる企業が少なくない 同じ出向でも在籍と転籍では大違い
4	第1章 会社に入るといこと 17、もしも会社が倒産したらどうなるのか	やっと企業の倒産件数が減ってきた 倒産しても全員が解雇されるわけではない
5	第1章 会社に入るといこと 18、転職環境はそんな甘くない	経済情勢によって環境は変化する 20歳代なら転職で収入増加の可能性も
6	第1章 会社に入るといこと 19、時代を読み解く最新キーワード	●人生100年時代 2007年生まれ50%が100歳を超えて生きる 専門学校などの職業教育推進も大きな柱に
7	14～19振り返り 中間試験	中間試験・解説
8	チェックシート作成	会社、就職内定をイメージして項目に従ってプランを作成する
9	チェックシート作成	会社、就職内定をイメージして項目に従ってプランを作成する
10	チェックシート作成	発表・フィードバック
11	第4章 社会人基礎力	社会人基礎力とは何なのか
12	第4章 社会人基礎力	求められる3つの能力と12の能力要素
13	第4章 社会人基礎力	セルフマネジメント、チームマネジメント、プロジェクトマネジメント
14	第4章 社会人基礎力	セルフマネジメント、チームマネジメント、プロジェクトマネジメント
15	定期試験	社会人基礎力振り返り、試験、解説、まとめ

科目名 (英)	※国家試験対策 National examination	年次	3	実務経験	担当	宗像純子 川名修 氏家由美 渡邊隆 青柳光子 鈴木由美子 小坪亜矢子
		授業形態	演習			
		時間数	360	有		
学科・コース	美容師実践科	単位	12			
講師紹介	実務経験と教員免許を持つ講師がわかりやすく講義をする					
目的 科目概要	国家試験に合格する為に、実技・筆記の集中を実施する					
到達目標	美容師国家試験に合格する					
評価方法	学則に定める評価とする。個人課題評価とグループ課題評価を統合し、評価する。評価記述はS(合格)、U(不合格)とする。導入教育の出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	上巻き・下巻きの復習をし、指を慣らしておくとい			
教材	WD用具一式					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	10月国家試験対策	実技課題の審査項目、衛生項目を把握する
2	10月国家試験対策	実技課題の審査項目、衛生項目を把握する
3	10月国家試験対策	模擬試験 現時点の実技・筆記の立ち位置の確認と弱点項目を知る
4	11月国家試験対策	実技: 第2課題決定後、実技審査項目、衛生上の取り扱い審査項目を把握し身に付ける特訓 座学: 全科目の教科書説明、問題を解き、訂正箇所の振り返りの実施
5	11月国家試験対策	実技: 第2課題決定後、実技審査項目、衛生上の取り扱い審査項目を把握し身に付ける特訓 座学: 全科目の教科書説明、問題を解き、訂正箇所の振り返りの実施
6	11月国家試験対策	実技: 第2課題決定後、実技審査項目、衛生上の取り扱い審査項目を把握し身に付ける特訓 座学: 全科目の教科書説明、問題を解き、訂正箇所の振り返りの実施
7	12月国家試験対策	模擬試験 現時点の実技・筆記の立ち位置の確認と弱点項目を知る 合格レベルの差の確認をしながら、課題克服を目指す
8	12月国家試験対策	模擬試験 現時点の実技・筆記の立ち位置の確認と弱点項目を知る 合格レベルの差の確認をしながら、課題克服を目指す
9	12月国家試験対策	模擬試験 現時点の実技・筆記の立ち位置の確認と弱点項目を知る 合格レベルの差の確認をしながら、課題克服を目指す
10	1月国家試験対策	本番同様の流れを意識し、繰り返しトレーニングを行う
11	1月国家試験対策	本番同様の流れを意識し、繰り返しトレーニングを行う
12	1月国家試験対策	本番同様の流れを意識し、繰り返しトレーニングを行う
13	2月国家試験対策	問題・解説・誤文訂正トレーニング
14	2月国家試験対策	問題・解説・誤文訂正トレーニング
15	2月国家試験対策	問題・解説・誤文訂正トレーニング